

主な事業・新規事業

～世界に誇る地域資源を活かし豊かでみんなが輝くまち高千穂へ～

ここでは、新年度の事業の中から主要な事業、新たな取り組みを紹介します。

1. 出産・子育て支援の充実

■出産子育て応援給付金事業、産後ケア事業(国補助事業) 1095万円

妊娠届け出時からすべての妊婦・子育て家庭に寄り添い、関係機関とも情報共有しながら継続支援できる体制をつくります。妊娠届と出生届のときにそれぞれ5万円の経済的支援も行います。母親の身体的回復と心理的な安定を促進し、母親自身がセルフケア能力を育み母子とその家族が健やかな育児ができるよう、必要なときは宿泊施設やデイサービスにより産後を支援します。

2. 学校教育・社会教育の充実

■小中学生への検定受験料支援 149万円

小学5・6年生へ漢字検定受験料1回分、中学1・2・3年生へ英語検定受験料1回分の支援を行い学力向上と学習意欲を高めます。

■コミュニティ・スクール事業、地域学校協働活動事業 110万円

地域学校協働活動本部の設置、推進員の活動により、これまで以上に地域と学校の協働活動を推進していきます。

■中学校部活動の地域移行に向けた取り組み 93万円

地域での指導者の育成や各種競技団体との連携により、部活動の地域移行に向けた取り組みを始めます。

■高千穂中学校移転改築検討委員会(学校建設事業費) 12万円

高千穂中学校移転改築に向けて検討委員会を立ち上げ具体的な検討を始めます。

3. 地域資源を活かした産業振興

■高千穂ファーマーズスクール事業 629万円

就農希望者への面談や農業経営ノウハウや技術習得のための現場研修をとおり新規就農者の効率的・安定的な農業経営を推進します。

■スマート農業事業 150万円

ドローンによる農薬散布やリモートによる機械管理等これまでの実証実験の結果を活かしスマート農業の普及に取り組みます。

■小水力発電施設整備 4030万円

岩戸畑中地区に整備してきた小水力発電施設は令和6年度からの運用開始に向け工事も最終段階となりました。自然に優しいエネルギーであり高千穂の地形を活かした持続可能な地域づくりを推進します。

■ユネスコエコパークを活かしたアドベンチャーツーリズムの推進 390万円

子供たちへの自然体験活動、尾橋渓谷でのパックラフト体験など、高千穂の自然や地域資源を活かしたアウトドアを開発し、町の魅力をより効果的に発信します。

4. 台風災害からの復旧と防災対策

■道路橋梁河川災害復旧事業(31箇所) 3億4200万円

■農地農業用施設災害復旧事業(180箇所) 8億5330万円

■林業施設災害復旧事業(3箇所) 1億1510万円

■災害関連地域防災がけ崩れ対策補助金 2330万円

令和4年9月の台風14号では本町は甚大な被害を受けました。すべての復旧には時間がかかりますが、本年度も引き続き災害復旧事業に取り組みます。また、防災がけ崩れ対策補助金により災害復旧、防災対策を支援します。昨年度に引き続き大分県庁、宮崎市役所から災害復旧対応支援職員が派遣されています。

高千穂鉄道跡地公園化基本計画

先月号に引き続き、今月号も鉄道公園整備費等について公表します。

平成17年9月の台風により被災し廃線となった高千穂鉄道のシンボル「高千穂鉄橋」や高千穂駅などの施設を、当時「鉄道遺産」として残すことを決定しました。しかし、今後点検や修繕など多額の費用が必要となります。

現在、検討を進めている高千穂鉄道跡地公園化事業は、高千穂鉄橋及び鉄橋周辺を民間事業者の技術力や経営ノウハウなどを活用し、魅力ある観光資源へ変化させるように考えています。そこで得られる収益を維持管理費や運営費に充てることで、町民の負担を軽減し、施設を未来に残していくことが可能になるだけではなく、雇用を生み出し、新たな観光地として観光客を迎えることも可能になります。

何もせず現状のまま維持していくにも、老朽化して解体するにも資金が必要となり、その資金は町が全額負担することになります。今後、町は人口減少による税収の減少、観光客の減少、それに伴う観光消費額の減少などが考えられ、今以上に厳しい状況に置かれることを想定しておくことが必要です。

この事業は、観光面の充実だけではなく、維持している施設が将来の負担とならないように計画している事業になります。

従来方式(町単独) 9,969,158 千円 → PFI方式(民間と協力) 5,443,392 千円

※事業期間を36年として計算しています。(整備期間6年・維持管理運営期間30年)

収入見込額 10,058,176 千円 → 5,617,719 千円

※需要目標数をもとに、各種データや類似施設を参考に計算しています。

高千穂町を訪れる観光客の6人に1人が鉄道公園を利用すると上記のような収入が見込めます。

先月号に総事業費を掲載しました。従来方式と比較した場合、PFI方式(民間事業者の資金・経営能力等を活用する方式)では町の支出額が減少します。(グラフ1・グラフ2参照)

PFI方式を活用した事業とすることで、鉄橋や駐車場、道路の整備については、民間事業者が整備を実施し、その整備費を町は収入を得ながら返していくことが可能になります。

また、収益施設やアスレチックなどの施設については、民間事業者が整備から維持管理運営まで実施しますので町からの支出はなく、計画している公園の整備・運営が可能になります。

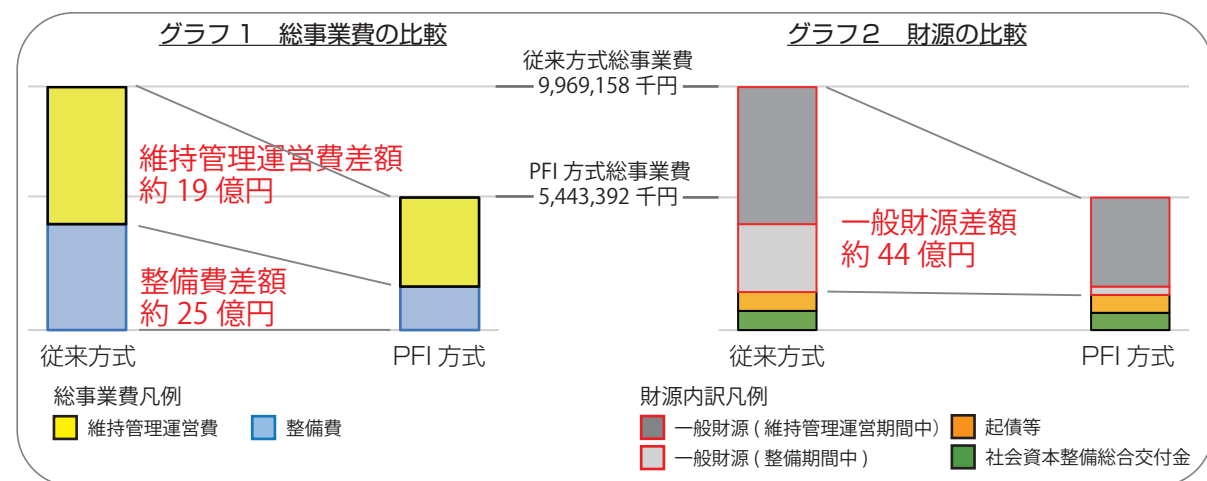


表1 高千穂鉄橋維持管理費 (千円)

維持管理用塗り替え・補修(初回)	534,380
▼ 初回塗り替え・補修以降	
定期点検(5年に1回)	38,500
塗装塗り替え(10年に1回)	82,500
補修等(点検時指摘箇所)	67,100

※この維持管理費は、鉄道公園を整備しない場合も必要。

表1は、高千穂鉄橋を維持していくために必要な費用となります。鉄橋の塗り替えや補修に対し、初年度は約5億3438万円が必要となります。以降10年に1回維持のための塗り替え、定期点検及び点検に伴う補修を5年に1回行うように維持管理運営期間では考えています。

鉄道公園を整備した場合は、鉄道公園での収益を充てることで、町の負担とならないように考えています。